自閉症者が行う作業工程における「保護バッファ」概念導入の重要性

－障害者就労支援施設における自閉症者が行う薪割作業を中心として－

○山梨県立大学　大津　雅之（5538）
青柳　修平（TRINITY SOLUTION・9988）、田中　謙（日本大学・9079）

キーワード：障害者就労支援施設・自閉症者・薪割作業・保護バッファ

１．研 究 目 的

障害者就労支援施設における業務は景気や消費者ニーズに影響され受注量が変動している。このため、施設経営上受注量に応じた生産業務量を設定して、利用者が業務作業にあたっている。作業にあたる利用者のうち、とりわけ自閉症者においては、安定した業務量に基づくルーティン化された作業環境が整えられると、心身の安定を図りながら業務遂行が可能となる可能性が高いことが知られている。一方、受注量の変動に伴う業務量の変動が生じ、作業時間等に不規則さが生じると、パニック、自傷行為、他害行為等心身の不調につながる可能性が向上することも知られている。安定した業務量に基づくルーティン化された作業環境を整備するためには、施設経営上の工夫により、受注量の変動が生じる前提のうえで、変化の小さい安定した業務量設定を掲げ、ルーティン化された作業環境を増やすことで自閉症者の心身の安定につなげていくことが求められる。

そこで、本研究では、障害者就労支援施設における自閉症者が行う薪割作業を例に、自閉症者が行う作業工程における「保護バッファ」概念導入の重要性を考察し提言する。

２．研究の視点および方法

本研究では、まず、（１）実証研究として、障害者就労支援施設における自閉症者が行う蒔割作業を例に､障害者就労支援施設における業務マネジメントの現状を明らかにした。その上で、障害者就労支援施設における業務マネジメントの質的向上を図ることを目的とした、自閉症者の障害特性に合わせた業務量調整のためのシミュレーションモデルを作成した。次に、その実証研究をもとに、文献調査を用いた（２）理論研究によって自閉症者が行う薪割作業の作業工程における「保護バッファ」の概念導入の重要性を考察した。

（１）実証研究

本研究に同意いただけた A 就労支援施設（B 型）のデータのみを使用させていただき、業務マネジメントに関する研究によって自閉症者が行う薪割作業の作業工程における、各作業段階の１つのモデルとなる「保護バッファ」を提示した。

（２）理論研究

実証研究で提示した「保護バッファ」が薪割作業を遂行している自閉症者の心身の安定へどのように関与するかについて文献調査を用いながら理論的に考察した。

３．倫理的配慮

本研究は日本大学文理学部研究倫理委員会の承認を得て実施された研究の一環である（承認番号 03-50、研究責任者：田中謙）。

４．研 究 結 果

「保護バッファ」とは、端的に言うのであれば「TOC（Theory of Constraints：制約条件の理論）」を提唱したエリヤフ・ゴールドラット（Eliyahu Moshe Goldratt）による、生産工程において生産速度を保つために、その直前の在庫を多くしておくことである（エリヤフ・ゴールドラット：2001）。つまり、障害者就労支援施設における作業工程を例にするのであれば、施設利用者が担う各作業工程における様々な作業において、実際に作業すべくものや状況が常にそこにあることと言えるであろう。

本研究では、実証研究によって特定の障害者就労支援施設における自閉症者が行う薪割作業の作業工程から１つのモデルとなる「保護バッファ」を提示することができた（詳細な内容は当日配布の資料に記載）。提示した「保護バッファ」は、薪割作業を遂行している自閉症者の「見通しの立たない状況では不安が強いが、見通しが立つ時はきっちりしている」（厚生労働省）とされている心身の安定に大きく関与すると考察できた。

５．考 察

これまで、障害者就労支援施設における作業は景気や消費者ニーズに影響され受注量が変動し、その変動に伴う業務量の変動や作業時間等に不規則さが、とりわけ自閉症者のパニック、自傷行為、他害行為等心身の不調につながっていた。また、障害者就労支援施設における自閉症者が担う様々な作業においては、見通しが立つよう作業工程の各段階に応じた写真や図が多く用いられてきたが、そこで示される内容は作業場面を切り抜いた「静止画像」ばかりで、「保護バッファ（実際に作業すべくものや状況が常にそこにある）」という「現実的な状況」にはなり得なかった。よって、本研究では障害者就労支援施設における自閉症者が行う作業工程における「保護バッファ」概念導入の重要性を提言したい。

引用・参考文献

・エリヤフ・ゴールドラット・三本木亮訳（2001）『ザ・ゴール』ダイヤモンド社.

本研究は公益財団法人大同生命厚生事業団「地域保健福祉研究助成」（研究代表者：青柳修平）の助成を受け実施した。